

第 1 回検討委員会で挙がった意見について

*青字は後日意見シートにより提出されたもの

議題（１）新たな生涯学習施設の事業概要（補足） ①役場周辺施設の整備や施設規模の適切性について 1/4

内容		町の考え
1	施設だけであれば適正な規模ができていると私は結論づけるが、拠点を作ってこれをどうしていくのか、運営者はどうするのか、こういったところが語られていない。	生涯学習センター単体だけでなく、周辺エリアを含め町役場周辺地区の都市機能の充実を図り、中井町都市マスタープランに掲げる「訪れるよろこびと暮らしのやすらぎが感じられる地域」をめざし、比奈窪56プランとして一体的な整備を計画しました。運営体制については、現在改善センター図書室で雇用している図書司書、生涯学習参与や、専門資格である「社会教育士」などの有資格者を採用し、町直営による適切な管理運営を想定しています。
2	この施設が防災に強いと言っても、浸水想定区域内にあるこの地域を防災の観点から見たのか。	役場周辺地区における生涯学習施設建設予定地の中村川の氾濫水位は最大1.13mと想定されています。これらを踏まえ町では土砂災害防止法及び水防法の改正を受けたハザードマップにより以下の対策を講じる計画を立てました。 ・町役場の地盤面と同等の標高（42.45m）まで敷地を嵩上げする。 ・機械設備等は原則として2階に設置し、1階の床仕上げは清掃等が容易なコンクリートなどにする。 ・やむを得ず1階に設置する機器やコンセントは、設置高さを地盤面から50cm上げる。 ・エレベータや玄関などの浸水対策として簡易止水板を備蓄する。 ・施設内の倉庫の一部を防災備蓄用品の保管場所として利用する。 本施設の防災上の位置付けは現行の『中井町地域防災計画』では、遺体安置所及び一時避難所であり非常用電源も設置予定です。なお、屋根の形状や設備費用の面から太陽光発電設備の設置は見送りましたが、環境省が定めるZEB基準のうち、補助金交付の要件でもあるZEB Orientedの基準を満たした環境性能となっています。
3	今後の問題もある土地とあるが、なぜ、この土地で計画されたのか、もし他に候補地があったのならば教えて欲しい。	町は、『中井町都市マスタープラン』において、役場周辺地区を公共、居住、商業機能等の複合的な都市機能の中心拠点として定めており、周辺エリアを含めた総合的な都市機能の充実を図るため、本事業において役場中心拠点整備（比奈窪56プラン）として一体的な整備を計画しました。 過去には雑色地区を選択肢として検討した経緯もありますが、用地取得費など事業費が高額になることから、本町の中心に位置し公共公益施設が集積している役場周辺が最も望ましいという考えのもと事業を進めてきました。
4	施設予定地の決定は「基本構想」に記載されていたが、浸水予想区域に指定されている。中村川氾濫水位と本施設の地盤面のレベルを教えてください。また、現在行政が考えている浸水対策は何か。	中村川の氾濫水位は、建設予定区域で最大1.13mです。町役場と同じ標高まで嵩上げを行ったうえで浸水対策を講じます。 地盤面のレベルについては、FL＝42.45mです。
5	中央公園や里都まちカフェとどのような連携がとれるのか。	中井町には、中井中央公園を含む豊かな屋外空間がある一方、多くの町民が一堂に集う屋内空間がありませんでした。図書館やホールなど異なる用途を一つの大屋根で包むことで季節・天候に依存せず、集い・活動する包摂的な場として設計されたものです。 町内で最も集客と賑わいのある中井中央公園や園内に併設された「里都まち♡CAFE」と連携も図ることができます。これにより町外からの来訪者を中央公園だけに留まらせるのではなく、町内に移動・分散させる動機付けを行うとともに、屋外の既存資源と屋内の生涯学習施設の一体的な活用によって、これまでにない新しい町民活動を生み出していく方針です。

①役場周辺施設の整備や施設規模の適切性について 2/4

内容		町の考え
6	一般の町民が新しい施設でお金を取って講演等を行うことができるのか。	新しく整備する施設は、社会教育法に基づく公民館という位置付けで整備するものであり、公民館の運営方針(第23条)を逸脱しない範囲において、地域住民の文化的教養の向上に資する有償のクラシックコンサートや月謝制の子ども向けダンス教室・塾の開講など、有償の活動についても地域の実情に合わせて柔軟に対応する方針です。
7	利用者をどの程度だと考えているのか。 平日、休日の利用者の想定、 年代別（0～10歳.11～20.21～30.31～40.41～50.51～60.61～70.71歳～） また、町内利用、町外利用など、どれくらいを想定しているのか。	町では、現在の改善センターの年間利用者数（諸室予約者と図書室利用者の合計）である約2万1,000人の約2.5倍となる5万人を利用者で見込み、国への補助金交付申請手続きを進めてまいりました。 世代ごとや平日・休日の詳細な想定数値は出しておりませんが、「人ありき活動ありき」で意見聴取を行ったことなど、新たな利活用に基づく基本構想・基本計画に加え、今後「生涯学習施設管理運営計画」を策定していくなかで、具体的な開館時間や資料展示、想定利用者に合わせた選書などを精査していきます。
8	改善センター、井ノ口公民館、境コミュニティセンター、さとまちカフェの利用数・課題などを聞きたい。すでに町の中にある交流拠点と言われるものに何が足りていなくて、何が足りていて、それぞれの施設は新しい生涯学習施設が出来たとしたらどうなるのか、維持していくのかなども気になる。施設を役場周辺にまとめることで、今後他の施設がどうなるのか。	○利用者数 令和6年度 ・改善センター20,953人　・井ノ口公民館15,249人 ・境コミュニティセンター4,721人 令和5年度 ・里都まちカフェ45,597人 ※既存施設の課題については、基本構想P12からP14に記載 それぞれの施設は公共施設等総合管理計画および公共施設長寿命化計画に基づいて適切な維持管理に努めてまいります。 施設を役場周辺にまとめることは役場、福祉センター、図書館、公民館など1箇所にまとめることで、「ついでに別の用事も済ませる」ことが可能になりワンストップサービスにつながります。 また、多様な人々が集まる拠点ができることで世代間交流やコミュニティ活動の活性化にもつながるものと期待しています。 ”館”から”環”の発想に基づき、地域に密着した既存施設それぞれの特色を活かしながら共存・差別化を図り、生涯学習施設が施設間のネットワーク形成における中心的施設の役割を担う考えのもと検討を進めてまいりました。
9	町が1番必要と考えているのは大ホールか。大ホールは確かにあったら雰囲気もいいし、準備などの職員の負担は減ると思う。 現状、年間何回大ホールの利用があるか。（人権公演、成人式など、決まってる範囲で）	講演会や式典等で年間8回程度の利用があります。それ以外にも就学児健診、消防団活動、救命講習、健康づくり事業等、年間を通じて公共利用に数多く利用されています。 また、スポーツ団体・サークルなどの利用として、卓球、剣道、キッズダンス、チアダンスなど日中、夕方、夜間と多用途に利用されています。
10	図面や面積を見てもうまく大きさを想像できない。図書利用については他都市との比較がありとても分かりやすかった、現在ある施設と比較したい。井ノ口公民館の面積、延べ床面積、部屋数、駐車場の台数や面積、利用状況などを比較したい。	井ノ口公民館は、建築面積816㎡、延床面積1,493㎡、部屋数12部屋、駐車場の台数34台、敷地面積2,188㎡となります。 ※別添の参考資料を合わせてご確認ください

①役場周辺施設の整備や施設規模の適切性について 3/4

内容		町の考え
11	みんながフラッと立ち寄れるコミュニティエリアがあるのはとてもいいと思う。今の夏はとても暑いため、高齢の方などみんながセンターに集まり、涼んだり本を読んだりできることは、環境にもいいしとても賛成。 そこで、町外の方が利用するためにバスロータリーを整えるよりも、町内の方がもっとたくさん使えるオンデマンドバスを増やす方がいいと思う。ただ、利用方法が事前に予約したりと少し面倒なので、町内巡回バスを巡らせて、予約せずにちょっと行きたい時にフラッと行ける仕組みを整えた方がいい。 せっかく町外の方が遊びにきたのに、町民が来にくいからあまり利用しないとなったら、せっかくの魅力も薄れてしまうのではと思った。生涯学習センター建設における町民がより使いやすくなる為の仕組みづくりなどは何かあるか。	アクセス面（オンデマンドバスの利用方法改善や公共交通の運行など）については、交通事業者や関係行政機関、公共交通の利用者などで構成される「中井町地域公共交通会議」のなかで適切に協議を進めていきます。 来館者が使いやすくなるための仕組みとして、使用用途を限定しない「余白空間(ホワイエ等)」を設けることで、目的がなくても気軽に立ち寄り、のんびりと寛げる設計となっています。 また、建物の内部空間だけでなく、天気の良い日などは開館、閉館時間に関係なく、外でのんびり過ごせる外構空間も町民をはじめとした来場者を引き付けるマグネット効果の役割を果たすと期待しています。
12	図面や画像でカフェと書いてあり、カフェがあるなら時間も潰せるしとてもいいと思う。 去年の情報だと新しい生涯学習センターはカフェなどの販売はNGと聞いたのが、そこは現状クリアになったのか。	本施設は、社会教育法に基づく「公民館」という位置付けになるため、営利を主目的とした常設カフェの設置や運用は認められません。しかし、令和5年度文部科学省による事務連絡「社会教育法第23条第1項第1号の解釈の周知について」により、イベントを行う際、キッチンカー等で飲食物の販売を行うことは公民館で実施し得る事例として文科省が示していることから、条件を整理したうえでカフェスペースを活用した販売活動を認めていく考えています。
13	改善センターの課題は何か。ホール不足、図書機能不足、子どもの居場所、学習スペース、交通アクセス、バリアフリーなど。課題を整理して、その解決策のために生涯学習センターを考えたい。	既存の農村環境改善センターは、老朽化が進んでいることのみならず、その機能として玄関ホールや廊下に空調設備がなく、夏季・冬季の環境が著しく劣悪であること、多目的ホールの座席やステージが狭小で揺れること、諸室や図書室スペースが不足していること、バリアフリーに対応していないことなど多くの設備・機能的課題を抱えています。 また、子どもたちが気軽に立ち寄っておしゃべりができるような機能に定義されない活動の許容や、多様なニーズを満たす空間の確保が生涯学習施設に求められています。
14	本施設は防災拠点として位置づけられ、「検討委員会第1回資料」に一時避難場所と明記されている。従来の改善センターは災害時には遺体安置所となっている。本施設には非常用電源設置の設置が予定されているが、屋根の形状から太陽光発電の設置や備蓄用品の保管施設などを考慮出来ないか。 中村上の避難場所である中井中学校体育館の進入路は坂道となっており、車椅子での進入が困難でトイレは障害者用ではないとのこと。防災計画を見直し中井中学校と入れ替えてはどうか。安心して避難できる防災拠点を望む。	太陽光の設置については費用や設備面から見送りましたが、非常用電源を設置するとともに、備蓄用品の保管については倉庫の一部の使用を想定していました。 「中井町地域防災計画」の見直しについては生涯学習施設の方向性が決まっていない中での回答が難しいため、ご意見として承ります。 温暖化や気象変動の影響を背景に台風や局地的なゲリラ豪雨など災害の規模や頻度が増えるとともに被害の甚大化が懸念されます。 災害の危険度やフェーズに応じて避難する場所も変わることに留意し、「一時的に身の安全を守る緊急避難先としての避難場所」と「自宅が被災した人が一定期間生活する避難所」の使い分けについて、いただいたご意見も踏まえ、今後の検討課題とさせていただきます。
15	山北町と中井町は面積は違えど、人口や人口減少などは似たものがある。山北町役場の隣に学習センターがあり、大ホールや視聴覚室や図書室もあった。3階には郷土資料エリア（正直、誰も見てないような、私も一度だけ見に行ったくらい。）もあり、内容は今考えている施設と似てるのかなと。なので山北町の施設の建設費用、年間の施設維持費など比較検討資料としてあると良い。図書利用の比較では中井町よりも山北町の方が利用者数も多くかなりの差がある。その差はなんなのか。	近隣自治体の類似事例として挙げた山北町生涯学習センター(平成4年竣工、延床面積4,165㎡、建築費24億円)との比較において、同町は蔵書数(約6.5万冊)、年間貸出冊数(41,546冊)と当町を大きく上回っています。これに対し当町では、蔵書数(20,875冊)、年間貸出冊数(6,903冊)に留まるものの、町民が相互利用可能な近隣の秦野市(約51万冊)や二宮町(約22万冊)の図書館を多く活用されている実態があると捉えています。町としては当町の人口推移や財政規模を踏まえつつ、町の持続的な発展に寄与できる適切な施設整備を進めてまいります。

①役場周辺施設の整備や施設規模の適切性について 4/4

	内容	町の考え
16	この建物はすごく素敵だと思っていて、どうせやるなら派手にやらないと人は集まらないと思う。	屋根形状がもたらす将来コストへの技術的検証について特徴的な屋根形状が将来のコスト増を招くのではないかという専門的な懸念に対し、町では施工者・設計者の見解を踏まえ、以下のように整理・判断しています。 ・ イニシャルコストへの影響…シンプルな形状の屋根に比べて施工の手間を考慮すると、屋根部分の費用が1.5倍程度上昇することは事実です。しかし、天井高が必要なホールを内包する建物において、建物を真四角（立方体）の形状に設計した場合、建物全体のボリューム（容積）が不必要に大きくなり、結果として全体の建築コストが大幅に上がる要因になります。そのため、勾配をつけた現在の屋根形状を選択したほうが、全体のコストは抑制されると判断しています。 ・ ランニングコスト（メンテナンス）への影響…屋根の耐久性は形状ではなく「屋根材の材質」に依存します。本設計ではグレードとして一般的な「カラーガルバリウム鋼板」を採用しており、長期的な劣化防止の観点から10年を目安に定期的な塗り替えメンテナンスを行う計画です（これは既存の役場庁舎等と同様の頻度です）。したがって、シンプルな屋根形状に変更したとしても、メンテナンスの発生頻度は変わりません。 ・ 足場および安全性について…足場は屋根の上に安全に上げられる部分のみに用意すればよいため、今回の屋根のねじれ形状が足場費用に悪影響を及ぼすことはありません。棟部分など勾配が急な箇所についても、一般的な勾配屋根と同様に安全帯等による落下防止対策を徹底して作業を行うため、今回の形状が将来的なメンテナンスコストの大幅な増加に繋がることはないと思われます。
17	推進する考え：今までの労力、時間、費用が意味無くなる、無駄になってしまう。※これからの中井町に必要な施設である。 取りやめの考え：建設費が高すぎる、維持費はどうするのか。 ※他にも必要な施設があるのではないか。 （※印の2点について客観的な判断基準がないものだろうか。） 役場周辺整備、公共施設の更新の優先順位などになると、生涯学習課だけの話しではない気がしている。	推進する考え、取りやめの考え、双方の客観的な判断基準がないものだろうかというのは非常に重要な視点と考えます。 役場周辺整備、公共施設の更新の優先順位については仰るように生涯学習課として答えを見出せる案件でないため、引き続き、関係各課との連携により庁内全体で検討を図ってまいります。

議題（１）新たな生涯学習施設の事業概要（補足）②意見集約プロセスの適切性について

	内容	町の考え
1	プロセス的に大きな問題はないと思っている。最終的に踏みとどまったということは、賛成・反対の人数のデータがあるのか。	町としては、これまでの地域懇談会や自治会説明会における住民の皆様への説明の仕方、情報提供の進め方に至らなかった点があったことを深く反省しています。最終的に事業を一旦踏みとどまり立ち止まる判断をしたことについて、明確な「賛成・反対の人数データ」といった数値的な統計を持ち合わせているわけではありません。 地域懇談会等で提示した総事業費に対して住民の皆様から非常に厳しいご意見や数多くの疑問符が突きつけられたこと、プロセス、進め方に対する反対の声を町として非常に重く受け止め、総合的に判断した結果です。今後は、町民ワークショップ「わいがやサロン」等で挙げた多様な意見を検証しつつ、検討委員会に添付しているような詳細な資料や客観的な判断基準をわかりやすく発信し、町民の皆さんの理解と納得感を得られるよう情報共有を徹底してまいります。
2	反対意見は金額面のことだけなのか、他にも問題があるのか。費用面では議会で進められていて、今回ストップがかかっている原因は何なのか。	「人ありき・活動ありき」の観点から誰もが話し合いに参加できる場として町民ワークショップを開催して検討を進めてきました。町民との対話に主眼を置き、これから使っていく人の意見を受け止めながら町民への周知と理解に努めてきましたが、町民の皆さんの不安や疑問を払拭できず、十分な理解と納得感を得られなかったことが要因と考えます。
3	施設を作ることにに関して反対と言う意見は無かった、必要性は皆さん認識されていたが、経緯ややり方、わいがやサロンだけで何が決まったのか疑問に感じたし、発言もした。	町民ワークショップ「わいがやサロン」で挙げた意見などを検討委員会に示しながら、これまでの町民意見や検討経過を踏まえたなかで、本検討委員会では合意形成のプロセスの充実をさらに図ってまいります。
4	今まで地域懇談会や自治会説明会が実施されたが、今回の検討委員会に添付された資料が有ったならばこれ程までの反対的な意見にはならなかったと思う。	これまでの説明や情報提供の仕方など至らなかった点を反省し、町が保有する検討資料や情報、数値を本検討委員会につまびらかにすることで多角的な検討を行っていただきたいと考えています。
5	コンサルが今年度からどのように入っているのか。	令和８年度は生涯学習施設建設関連予算を計上しておりません。したがってコンサルタント業者との契約は行っていません。

議題（２）新たな生涯学習施設の財源構成について ①建設、維持管理費を含めた財政計画の妥当性について

	内容	町の考え
1	地域懇談会では相当厳しい質問や疑問符がついた。特に大きかったのは、約41億円かかるということがいきなり出たため、これに対して猛反発があった。	地域懇談会等で提示した事業費約41億円について、周辺のインフラ整備を含んだ総合的な金額であるという説明が参加者の皆様に樹分浸透せず、ご理解に至らなかった点を町として認識しています。
	維持管理費について令和８年２月１０日開催の比奈窪自治会説明会での回答では年間2,500万円と専門職員１人の人件費との回答があり、今回の資料には記載されていないが、金額に変更は無いか。	今後の施設維持管理費については、他の同規模の施設等の実績を勘案し、年間2,500万円程度と見込んでいます。これは専門職員1名分の人件費のみを指すのではなく、新たに専門職員を1名増員して管理運営の中心的役割を担わせる想定のもと、施設全体の維持にかかるコストを試算したものです。
2	20億円、40億円と聞いても、とても難しく判断しきれない。例えば井ノ口公民館は、設計、外構、建設、土地の収容などの出費も含めいくらからいかったのか。 インフレもあり現在価値に直すと額は上がると思うが、一旦当時の額で知りたい。	井ノ口公民館は、昭和63年竣工、延床面積1,493㎡、建築費4.1億円。松田生涯学習センターは、昭和56年竣工、延床面積5773㎡、建築費14.3億円。開成町町民センターは、平成7年竣工、延床面積3,239㎡、建築費17.5億円。山北町生涯学習センターは、平成4年竣工、延床面積5,773㎡、建築費24億円です。 ※添付した参考資料を合わせてご確認ください。
3	自治体のローンの仕組みが分からないので、次回またしっかり聞きたいと思う。	資金計画として、町では「地方債」の借り入れによる財政運営を予定しています。これは一時的な資金不足を補う短期の一時借入金や、地方交付税の財源不足を補う臨時財政対策債とは異なり、地方財政法に基づき総務大臣の許可を得て、将来にわたって財政負担を平準化しながら返済していくための仕組みです。かつて昭和63年に建築された井ノ口公民館（延床面積、建築費4.1億円）をはじめ、近隣の松田町生涯学習センター（昭和56年・14.3億円）、開成町町民センター（平成7年・17.5億円）、山北町生涯学習センター（平成4年・24億円）などの事例もございますが、町としても限られた財源のなかで人口減少の将来予測を見据え、中井町の財政の身の丈に応じた適切な規模・金額となるよう精査を進めていく方針です。
4	20～30年の維持費、大規模改修費、人件費、光熱費を含めた長期シミュレーションが気になる。	人件費や光熱水費をはじめとするランニングコストの精査、および20～30年先を見据えた大規模改修費の長期シミュレーションについては、今後の協議を踏まえてさらに精査に努めてまいります。 また、今後のすべての公共施設維持管理においては、すでに策定している「公共施設等総合管理計画」に則り、施設全体の最適化や「縮充」の考え方にに基づきながら財政の健全性を維持していく方針です。

議題（２）新たな生涯学習施設の財源構成について ②箱物建設そのものへの慎重意見について

	内容	町の考え
1	地域が２分化されている中で生涯学習施設を作ったとして、公共施設のネットワークを町がうまくマネジメントできるのだろうか。	「住民意見が二分されるなかで既存の施設ネットワークをうまくマネジメントできるのか」「現在の改善センターをエレベーターの後付け等で10年ほど延命、改築し、将来、必ず必要となる役場庁舎の建て替えと同時に生涯学習施設を一体的に建てた方が総費用が安くなるのではないか」という代替案をいただいています。 町の見解としては、役場本庁舎については現在の「公共施設長寿命化計画」において、2064年まで適切な修繕を重ねながら維持・使用していく方針(目標使用期間100年)を定めており、直近での建て替えを想定していません。そのため現時点で著しく老朽化し、設備的、機能的な課題に直面している生涯学習機能の更新については、役場の建て替えを待つことなく、中心市街地形成を前提とした地域拠点として早期に整備を進め、今後の学校等の対応に転換していく必要があると考えています。既存の井ノ口公民館、境コミュニティセンターなどの施設についても、「公共施設長寿命化計画」にしたがって適切な維持管理を行っています。施設を役場周辺にまとめることは、施設間を移動しやすく便利な地域拠点としての機能性を高めるものであり、“館(点)”から“環(ネットワーク)”の発想に基づき、地域に密着した既存施設それぞれの特色を生かしながら共存・差別化を図り、新たな生涯学習施設がその中心的な役割を担うネットワークを構築していきます。
2	改善センターもそうだが、役場も雨漏りしていると聞いた。必ず役場の建て替えも必要になってくると思うと、例えば今、改善センターをバリアフリー化（エレベーター付ける、バリアフリースイールの後付け）などの改築を行って10年くらい延命し、いざ役場を建て替えるとなった時に、生涯学習施設とともにしっかり建てるのはどうか。素人目線だと合計の費用も安く済むと思う。	

議題（２）新たな生涯学習施設の財源構成について ③学校の施設修繕や統廃合等他事業との優先性について

	内容	町の考え
1	立ち止まって欲しいと言われている方は、もっと町にやって欲しいことがあるのではないかと。必要とされる施策が網羅されているか、抜け漏れなくできているか、それを町民に周知できているという想定のもと、このような結果になっているのか。	学校の施設修繕や統廃合など、もっと他に優先して予算を投じるべき施策があるのではないかとのご意見について町では、『中井町公共施設長寿命化計画』に基づき、施設修繕などに取り組んできており、学校施設や給食センターも同様です。中井っ子をどう育みたいかを第一に令和8年度から検討が始まっている、学校のあり方検討には一定の時間を要すると考えて後述するような見通しの元、事業を推進しているとともに、「総合計画」で町の施策を網羅的に取り上げており、「総合計画」に掲げた政策・施策・事業を総合的かつバランスよく推進しています。
2	例えば生涯学習施設建設に向けて今年スタートし、学校のあり方検討会により2028年度に中学校の建て替えが決まった場合、学校建設にかかる費用はすぐに用意できるものなのか。学校は国の補助金で建てられるのか。 保護者の意見としては、生涯学習施設にお金を使ったら学校施設が後回しになってしまうんじゃないか（一部の方は、生涯学習施設より先に中学校の建物をどうにかして欲しい）と思っている方が見られた。 学校について検討会が始まっているが、生涯学習施設ありきの話し合いなら意味がないので、そのお金の面をクリアにできたら保護者は安心すると思う。	教育施策分野においては、現在「なかい教育ビジョン」に掲げた「未来の学校のあり方Plan」の検討を進めていますが、学校施設の更新を含む充実と、生涯学習施設の建設事業は、それぞれ重要であり町財政においては連携し、一貫性を持たなければならないと捉えています。そのため減少してきた町債や基金の状況を踏まえ、役場中心拠点整備と行うことや補助金活用などにより、財政負担を可能な限り抑え、長年の課題として先送りされてきた生涯学習施設建設事業を行うことで、今後の学校のあり方を検討する中で、求められる学校整備についても補助金等を見込みながら、町の持続的な発展と次世代への投資として、整合性を持たせながら取り組んでいく方針です。なお、学校整備においても自校式給食を取り入れることで給食センターは更新は行わないなど財政負担の軽減を図ります。

議題（３）今後の方向性検討に向けて 1/2

	内容	町の考え
1	①このまま進める ②部分修正 ③再検討 の方向を決めるので良いか。①の場合はこのままだが、②や③については 建設の費用面を検討できる職種の方がこの委員会にいないため、議論が難しいかもしれない。町内の設計士の方や建築事業者に参考意見を聞くことができると良いと思う。明日の中井町を考えて検討していけたらいいと思う。金額にとらわれず必要なものを中井町の未来に残すという事を情報発信も丁寧に。	町が設置した本検討委員会においては、今回実施設計に至った経緯やその具体的な内容等について、委員の皆様にしっかりと共有を図ってまいります。また、「話し合いが堂々巡りになる」「委員の中に建設費用を専門的に検証できる職種が不足しており議論が難しい」という懸念に対しては、町として把握している事実等はつまびらかにし、共通認識を深めていく中で今後の委員会の議論の方向性として選択肢を示すことが必要との判断があれば対応することで、さらに論点が明らかになるよう努めてまいります。
2	この検討委員会で最終的に何が出来れば、ゴーサインが出るのか。	検討委員会での方向性を協議したものを町長へ答申し、その答申を受け、町が方針を決定し、議会に諮る流れとなります。
3	どういう方向で施設を作っていったらいいのかを検討委員会の役割の資料に沿って進めて行くのがベターだと思っている。	検討委員会の役割の資料に要点をまとめておりますので、今後も適宜確認しながら進めてまいります。
4	検討委員会で出てきた意見は、各論併記で示してほしい。1つの結論をまとめるのではなく、いろいろな考え方がある。町長がそれを受けてどう決めていくかは町の議会で決めていけばいい。	本委員会における最終的な答申のまとめ方については、一つの結論を無理に導き出すのではなく、多様な考え方を「各論併記」の形で答申案としてまとめていく方向で進めるご提案もありました。委員会での方向性の協議結果を町長へ答申し、その答申を受けた町長が町として最終的な判断を行い、広報広聴の取り組みの中であらためて町民との共有を図りつつ、最終的な事業方針や予算の承認については、町の議会において決定される仕組みとなっています。
5	実施設計からスタートして検討するとのことだが、これを建てるか全部決まった状態で、何を検討するのか。何を建てるか、どこに建てるかが決まっている、じゃあ何を検討するのか。	今回の実施設計に至った経緯や内容等について、委員の皆さんに共通の認識と理解をいただいたうえで実現可能な方法を協議していただきたいと考えています。検討に際しては、町の財政状況、町が抱える課題、町の将来観測等を踏まえ、このまま計画どおり進めるのか、仕様を見直す必要があるのか、あるとすればどの程度かなど、さまざまな選択肢が考えられます。結論ありきで検討をお願いしているわけではありません。
6	例えば傍聴に来ている人などにも委員自身が意見を聞いてみたら参考になると思う。	委員会運営ルール上、傍聴者の方の直接の発言は認められませんが、委員会外で委員の皆様が広く意見を聴取されることは議論の参考として推奨されるものと考えています。
7	具体的な領域に入ってくるとコンサルや設計者等の説明がないと我々だけでは進めにくいと思う。毎年物価が変わり、方向性も変わってくるかもしれない。コンサル、設計者、建築関係の方に意見を聞かないで進めて、後でお金が足りないとかそういうことにならないよう、実行可能な検討委員会にしなければならない。	委員会設置要綱の規定により会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができるとされておりますので、今後の委員会の進展を踏まえ、必要と判断された場合には意見を伺う機会を設けてまいります。
8	個人的には総論賛成。中井町の財源的に余裕があれば余裕のある面積で、外観的にも近代的な建築物で他町村にも自慢できるような施設が望まれるが、緊縮財政のおり人口も減少傾向にある中将来を予想して中井町の身の丈に応じた建物でよいと思う。それがどの程度の物かを委員会で検討するものと思う。	いただいたご意見を基に進めてまいります。
9	このまま話し合いの回数を重ねても「堂々巡り」の話し合いで終わるのではないかと危惧している。(焦点化した話し合いの構築へ) 打開策の例 1. キャッチフレーズの設定「例」 〈実現可能な方向性を皆さんと共に考えていきましょう！〉 2. 行政主導型の提案を回ごとに出し、その内容に限定した意見を求めていく。(内容のある話し合いに) (例) ①現状維持で建設を進めていく際の利点や問題点、課題の洗い出し ②部分修正し建設を進めていく際の利点や問題点、課題の洗い出し ③再検討(取り止め後)していく際の利点や問題点、課題の洗い出し ④まとめ(報告内容)と今後の方向性についての確認 3. 個々の発言時のお願いをする。(共通理解) (例)分かりやすく話しの内容をまとめて発言を(短時間)	いただいたご意見を基に進めてまいります。

議題（3）今後の方向性検討に向けて 2/2

	内容	町の考え
10	中井町生涯学習機能及びその施設について、その現状をSWOT分析して示して欲しい。ネットワーク、防災、子育て、高齢者支援など多面的に分析してほしい。課題を共有して行きたいと思う。	いただいたご意見を基に進めてまいります。